

在籍校名 飯塚市立飯塚東小学校  
職・氏名 教諭 桑岡 貴志

## 研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

### 記

#### 1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

#### 2 主題研修について

研究主題 地域の防災に進んで関わる児童を育てる第4学年総合的な学習の時間の指導  
－自助の視点からの地域素材の教材化と問題意識が連続する学習過程を通して－

##### (1) 研究のねらい

###### ア 課題の背景

文部科学省が策定した第3次学校安全の推進に関する計画（令和4年3月）において、学校教育活動全体を通して、児童が自らの安全を確保する基礎的な資質・能力を継続的に身に付けるとともに、安全で安心な社会づくりに参画できるようになることが示された。在籍校においては防災訓練を学校行事等に位置付け、主として地震に備える防災教育を進めてきた。その一方で、地域の災害特性を踏まえた各学年に応じた防災教育が十分ではなかったため、児童自らが地域の災害特性から問題を見だし、切実感をもって地域の防災に継続的に関わる学習の展開に課題が見られる。在籍校が所在する自治体は、これまで豪雨による被害を何度も受けており、喫緊の課題として危険区域の豪雨災害に対する対策を進めている。在籍校区にも危険区域指定の場所が点在している。平成30年西日本豪雨では一部で浸水被害等が発生し、在籍校や地域交流センターに避難する世帯があった。今後も浸水被害等が発生し、命が脅かされる危険性が指摘されている。そこで、地域の豪雨災害に関する問題解決に向け、切実感をもって行政の担当者や地域の方と協働し、これからの安全な生活を実現するためにできることを考え、取り組み続ける児童を育てることを意図し、本主題を設定した。

###### イ 研究の目的

第4学年総合的な学習の時間において、地域の防災に進んで関わる児童を育てるために、児童の自助の視点からの地域素材の教材化と問題意識が連続する学習過程の有効性を究明する。

###### ウ 研究の仮説

第4学年総合的な学習の時間において、児童の自助に視点を置いた豪雨災害に関する地域素材の教材化を図り、児童の求めに応じて解決方法を選択する活動や行政の担当者や地域の方と協働する活動を位置付けた学習過程を仕組みれば、地域の防災に進んで関わる児童を育てることができるであろう。

##### (2) 研究の構想

###### ア 主題の説明

###### (ア) 主題について

「地域」とは、児童の小・中学校区を中心とした生活圏を指す。「防災」とは、地域の人、もの、ことが関わって行われる災害を未然に防ぐための備えや、災害が起きた時の被害を最小限に抑えるための対応のことである。本研究では、第4学年の発達段階や地域の災害特性、行政の願い等を鑑み、主

として児童の自助の視点からの豪雨災害の防災に関する学習内容を取り上げる。

「進んで関わる」とは、児童が地域から見いだした問題の解決に向けて、切実感をもって行政の担当者や地域の方と協働して取り組むことである。「地域の防災に進んで関わる児童」とは、地域の豪雨災害に関する問題の解決に向けて、切実感をもって行政の担当者や地域の方と協働し、これからの安全な生活を実現するために自分にできることを考え、取り組み続ける児童のことである。本研究において、目指す児童の姿を、以下のように三つの資質・能力に対応した姿で捉える。

- 豪雨災害から地域を守る方等との関わりから、目的に応じた方法を選択し問題解決に必要な情報を収集、整理・分析する技能を身に付け、安全な場所へ適切に避難する行動や自分と家族の生活は地域の防災に携わる方々の働きによって支えられていることを理解している。【知識・技能】
- 地域の現状や豪雨災害から地域を守る方等との関わりから、地域の問題を見だし、見通しをもって収集した情報や、行政の担当者や地域の方の助言等を比較・関連付けながら解決し、自分と家族の安全を守る具体的な行動について自分の考えを表現している。【思考・判断・表現】
- 豪雨災害から地域を守る方等との関わりから、行政の担当者や地域の方と協働して地域の防災に取り組み、地域の防災に取り組む一員としてこれからの安全な生活を実現するために自分にできることを見付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(イ) 副題について (図1)

a 自助の視点からの地域素材の教材化

「自助」とは、豪雨災害から自分と家族の命を守るために、自分自身が行う豪雨災害に対する日常的な備えや緊急時の適切な対応のことである。「自助の視点」とは、児童一人一人が豪雨災害に対する日常的な備えや緊急時の適切な対応を考え、豪雨災害の防災に携わる人、もの、ことを捉えることである。「地域素材の教材化」とは、学校の総合的な学習の時間の目標の実現に向けて探究課題や資質・能力を設定し地域の豪雨災害の防災に携わる人、もの、ことを教材化の三つの視点(表1)を基に整理・分析して、単元を構想することである。「自助の視点からの地域素材の教材化」とは、地域の豪雨災害の防災に携わる人、もの、ことを教材化の三つの視点を基に整理・分析し、児童が豪雨災害から自分と家族の命を守ることを考えるための単元を構想することである。

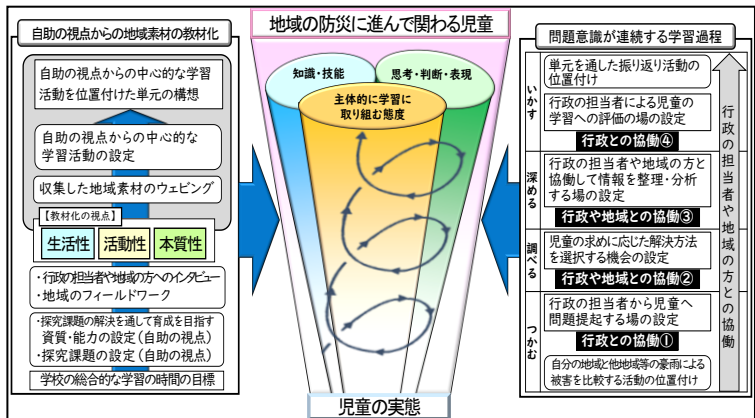


図1 研究構想図

表1 教材化の三つの視点

生活性	学習対象への興味・関心を喚起され、自分との関わりを感じることができる。
活動性	多くの情報収集ができ、多様な他者と協働して繰り返し学習対象に関わることができる。
本質性	自分の生き方や社会への関わり方を考えることにつながる、価値ある内容を導き出すことができる。

b 問題意識が連続する学習過程

「問題意識」とは、児童が学習対象に抱いた問いを自覚し、切実感をもって追究しようとする認識である。「問題意識が連続する」とは、探究的な学習の過程において、児童が学習対象へ繰り返し働きかけ、新たに見いだした問いを追究し続けることである。「問題意識が連続する学習過程」とは、児童の問題意識が連続するよう、単元の各段階に児童の求めに応じて解決方法を選択する活動や行政の担当者(防災所管課)や地域の方(地域の協力者)と協働する活動を位置付けることである。

イ 研究の内容

(ア) 自助の視点からの地域素材の教材化

まず、学校の総合的な学習の時間の目標の実現に向けて児童の自助の視点から探究課題や探究課題の解決を通して育成する資質・能力を設定する。次に、フィールドワーク等で地域素材を収集する。そして、収集した地域素材を教材化の三つの視点で整理しウェビングで分析する。さらに、整理・分





開する。そのために、危険箇所等を記した通学路の防災マップの作成に加えて、豪雨時、どのように行動するかなど、一人一人の避難計画を考えるマイ・タイムラインの作成を学習活動に設定することとした。実証授業Ⅱでは、先述した約6割の中から抽出したA児の変容とともに実際の考察を行う。

## ウ 実証授業Ⅱの実際と考察

### (7) 単元名「B小校区の防災マップを作ろう」

#### (4) 単元の目標・単元計画

単元 目標	豪雨災害に備えた自分の通学路の防災マップやマイ・タイムラインを作成する活動を通して、校区の危険な場所等を理解し、一人一人の具体的な避難計画を考え、これからの安全な生活を実現するために自分にできることを見付けようとする事ができる。
実施期間・対象	令和4年10月6日(木)～10月25日(火)・A市立B小学校 第4学年C組 30名
学習過程(90分)	学習活動
つかむ[2]	○ 今年の豪雨における自分の地域と他地域の災害状況や過去に自分の地域で起きた豪雨災害の様子を比較する。 ○ 地域防災マネージャーによる命を守るための防災マップや避難計画を作成する問題提起を基に学習問題をつくる。 【学習問題】自分と大切な人の命を守るための防災マップと一人一人の避難計画を作ろう。
調べる[2]	○ 通学路別グループで解決方法を選択し、防災マップの作成に必要な情報を収集する。 【例】行政の担当者とのフィールドワーク・Google Mapや国土地理院電子地図の活用・地域の方へのインタビュー
深める[4]	○ 行政の担当者や地域の方と協働して防災マップに使う情報を整理し、防災マップを作成する。 ○ 作成した防災マップと関連付け、いつ、どこで、どのように避難するかを計画したマイ・タイムラインを作成する。
いかす[1]	○ 地域防災マネージャーからマイ・タイムラインへの助言やこれまでの学習に対する価値付け、豪雨災害から命を守る行動を家族や地域の方々に広める活動に取り組むことの提案を受け、今後の活動への意欲を高める。

#### (4) 抽出児童(A児)の実態

実証授業Ⅰの「深める」段階において、A児は収集した情報をそのまま自分の考えにしていた。情報の整理・分析の過程に課題が見られた。また、単元を通した振り返りでは、避難場所に行くまでの経路や安全な場所が近くにない場合の対応等、緊急時の行動への不安に関する記述が見られた。実証授業Ⅰ後の意識調査においても、表2の質問項目にA児の不安を示す回答が見られた。

表2 A児の不安が見られた質問項目

資質・能力	質問項目
知識・技能	下校中や一人で家にいる時に大雨による被害が起きた場合、自分自身の安全を守るための行動をすることができていますか。
思考・判断・表現	集めた情報を比べたり、結びつけたりして、地域の問題を解決することができていますか。
主体的に学習に取り組む態度	地域のために自分たちにできることを考え、地域の方々に提案したいですか。

※全国学力・学習状況調査の質問紙調査等を参考に作成した児童の意識調査

#### (I) 「つかむ」段階

児童が自分の校区も豪雨災害が危惧されていることを把握することができるように、今年の豪雨時の自分の地域の現状と他地域の災害状況を比較する活動を位置付けた。児童から、自分の校区で他地域と同量の雨が降った場合を心配する発言が多く見られた。これらを受け、さらに、過去に校区で起きた豪雨災害の様子を示す資料を提示した。児童は、自分の校区も豪雨による大きな被害を受ける可能性があることに気付くことができた。そして、児童は、前単元で学習した安全な場所だけではなく危険な場所を調べて日常的に備える必要性を感じていた。そこで、児童の求めに応じて、地域防災マネージャーに助言を求める場を設定した。児童は、Zoom Meetingsを活用して地域防災マネージャーからの助言を受けた。その後、地域防災マネージャーから児童に危険箇所等を示した防災マップを作成し、自分の避難計画を考える必要性を問題提起する場を設定した。これにより、資料2のA児のように児童は、今回も行政の担当者や地域の方の協力を得て大雨から命を守る学習に取り組んでいきたい(下線部)という意欲が高まり、自分と大切な人(家族)の命を守るための防災マップと一人一人の避難計画を作ろうという学習問題が生じた。

自分の目でたしかめたり、	行政の担当者	さんと地域の人と一緒に考えたりして、
自分と大切な人の命をせたいに守る通学路の防災マップを作りたい。		
そして、自分の命を守るひなん計画を作りたい。	主体的に学習に取り組む態度	

資料2 「つかむ」段階のA児の振り返り

#### (II) 「調べる」段階

児童が主体的に情報収集に取り組むことができるように、児童から挙げた多様な活動の中から児童自身が解決方法を選択する機会を設定した。児童全員が選択した通学路別のフィールドワークでは、行政の担当者の助言を受けながら地域の危険箇所等を調べる児童の姿が見られた。その後児童はフィールドワークで調べきれなかった情報を収集するための解決方法(国土地理院電子地図の活用等)を選択し、多くの情報を収集することができた。資料3のA児のように児童は、自分たちの求めに応じて解決方法を選択、情報を収集(破線部)、収集した情報を基に防災マップを作る(実線部)という次の活動への見通しをもつことができた。

太陽光発電所のところは土地が高く	ゆう便局は少し低い。	知識・技能
ゆう便局の坂を下ると、低い土地になることが分かりました。		
次の時間は調べた事をもとにどんな情報を使っていくのか友達と		思考・判断・表現
決めて	行政の担当者	さんと地域の人たちと防災マップを作りたいです。

資料3 「調べる」段階のA児の振り返り

### (カ) 「深める」段階

児童が収集した多くの情報の中から防災マップの作成に必要な情報を取捨選択することができるように、フィールドワーク等で関わった行政の担当者や地域の方と協働して情報を整理・分析する活動を設定した。当初、A児たちは、フィールドワークで建物Dを地域の避難場所として確認していた。しかし、市のハザードマップや地域の方の情報では、建物D付近が浸水危険区域に指定されていることに疑問を抱いていた。そこで、A児たちは地域の方の要望を受け、行政の担当者に建物Dが避難場所として相応しいかを質問した。その結果、資料4のようにA児は、建物Dの安全性を確認した（波線部）。始めは疑問を抱いていたA児が、建物Dを避難場所として相応しいと判断して、防災マップの作成に生かすことができた（資料5）。このことから、行政や地域と協働する活動を位置付けたことが、地域の方が避難場所の認識を改めたり行政の担当者が市のハザードマップの情報の伝え方を再考したりすることに有効に働いたと考える。

資料6のような防災マップの作成後、児童が防災マップと関連付けた避難計画を考えることができるように、行政の担当者や地域の方による問題提起の場を設定した。これにより児童は、実際の豪雨時、どこでどのように行動するかなど、自分の避難計画の必要性を強く感じるようになった。そこで、登下校中のゲリラ豪雨を想定したマイ・タイムラインを作成する活動を位置付けた。資料7のA児のように児童一人一人が、マイ・タイムラインを作成することができた。児童はマイ・タイムラインを友達と見合う中で、本当に役立つものにするために行政の担当者からの助言を求めるようになっていった。

### (キ) 「いかす」段階

再度、地域防災マネージャーを学校に招き、児童の考えたマイ・タイムラインが本当に役立つものかを、地域防災マネージャーに確認する活動を設定した。資料8のA児のように児童は、地域防災マネージャーからの助言を基に、複数の避難経路や行動手順を端的に示した緊急時に役立つマイ・タイムラインに作り直すことができた。その後児童が行政や地域との協働のよさを実感することができるように、地域防災マネージャーによる学習の評価の場を設定した。児童は、行政の担当者や地域の方と一緒に地域の問題を解決したよさを実感し、地域防災マネージャーからこれまでの学習を生かした地域への発信を提案され、今後の活動への意欲をもつことができた。単元を通した振り返りでは、資料9のA児のように児童は、これからの安全な生活を実現するために自分にできることを記述することができた。

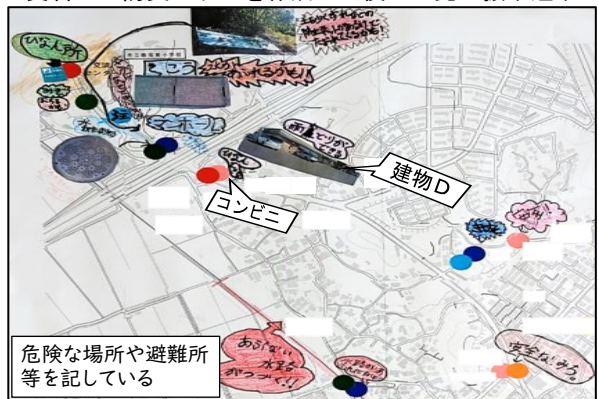
友達：市のハザードマップでは赤くなっている(浸水危険区域)けれど、ここは安全な場所で大丈夫ですか？  
 GT：雨水は、(市のハザードマップを指しながら)この方向へ流れるんだよね、そういう意味で考えると、ここは安全だね。  
 A児：(安心した表情で)わかりました。  
 GT：もしもの時は建物Dで雨宿りさせてもらうといいね。

資料4 A児たちが行政の担当者に情報を聞く場面

地域の方からは近くに避難所がないと言われて心配だったけれど、行政の担当者は「さんからこの道は下り坂だから水が上から流れてくる。建物Dは少し高い所にあるから安全。だからもしもの時は雨宿りさせてもらう」というアドバイスももらって防災マップ作りにかかすことができた。

思考・判断・表現

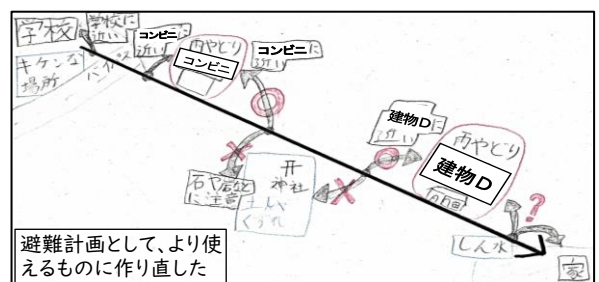
資料5 防災マップを作成した後のA児の振り返り



資料6 A児たちが作成した防災マップ（一部）



資料7 A児のマイ・タイムライン（修正前）



資料8 A児のマイ・タイムライン（修正後）

これからはゲリラ豪雨のような集中豪雨が本当にきても親や兄弟を助けてあげられるように命を守る行動(みんな安全な場所にみんなさせるために走る・声をかける)を教えてください。  
 主体的に学習に取り組む態度

資料9 単元を通したA児の振り返り



#### (4) 全体考察

単元終末時の児童の意識の変容から全体考察を述べる。表3は、本研究で目指した三つの資質・能力に係る学級全体の意識の変容（4件法平均値N=30）である。いずれの意識も実証授業Ⅱ後にかけて数値の伸びが見られた。以下、意識の変容につながった各資質・能力の高まりについて述べる。

##### ア 知識・技能

図3は、実証授業後のワークシートの記述や授業中の様相観察から、知識・技能を分析したものである。実証授業Ⅱの終末では、行政の担当者や地域の方と協働して地域の問題解決に取り組む、自分と家族の命を守る自信がついた等の記述が見られた。これは、行政や地域と協働する活動を位置付けたことが、行政の担当者や地域の方とともに地域の問題を解決するよさを理解する児童を育てるうえで有効であったと考える。

##### イ 思考・判断・表現

図4は、実証授業後のワークシートの記述から思考・判断・表現を分析したものである。実証授業Ⅱの終末では、行政の担当者や地域の方の助言を受けて、崖から出る水などの危険サインを確認したり複数の避難経路を考えたりして、より役立つマイ・タイムラインにする等の記述が見られた。これにより、児童が緊急時の避難計画を具体化する過程で、児童の求めに応じて行政の担当者や地域の方からの助言や評価を取り入れる活動を位置付けたことが、自分と家族の安全を守る具体的な行動を考える児童を育てるうえで有効に働いたと考える。

##### ウ 主体的に学習に取り組む態度

資料10は、実証授業Ⅱの単元を通したB児の振り返りの記述である。資料9のA児を含め、これからの安全な生活を実現するためにできることを見付け、取り組もうとする等の記述が30名中25名に見られた。これは、行政や地域と児童が解決すべき地域の課題を共有し協働して解決を図る単元を構想したことや学習過程に行政の担当者や地域の方と協働する活動を位置付けたことが、これからの安全な生活の実現に向け、できることを見付けようとする児童を育てるうえで有効であったと考える。

#### (5) 研究の成果と今後の課題

##### ア 研究の成果

- 学校、行政、地域の協働体制を構築して地域の豪雨災害の防災を教材化し、学習過程に児童の求めに応じて解決方法を選択する活動や行政の担当者や地域の方と協働する活動等を位置付けたことが、児童の問題意識が連続し、地域の防災に進んで関わる児童を育てることにつながった。

##### イ 今後の課題

- 他教科等との関連や地域の防災に携わる人、もの、こととの関わり等をより明確にしカリキュラム・マネジメントの視点で指導計画を整理して各学年の豪雨災害に係る単元構想の基盤とする。

##### 〈参考文献〉

- ・ 文部科学省(2021) 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』
- ・ 文部科学省(2013) 『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開』
- ・ 福岡県教育センター(2006) 『自己の生き方を考え続ける総合的な学習の時間』

表3 資質・能力に係る意識調査（N=30）

資質・能力	事前	実証Ⅰ後	実証Ⅱ後
知識・技能	2.71	3.36	3.65
思考・判断・表現	2.38	2.83	3.33
主体的に学習に取り組む態度	2.98	3.22	3.53

※全国学力・学習状況調査の質問紙調査等を参考に作成した児童の意識調査4件法で回答（4あてはまる 3どちらかと言えばあてはまる 2どちらかと言えばあてはまらない 1あてはまらない）

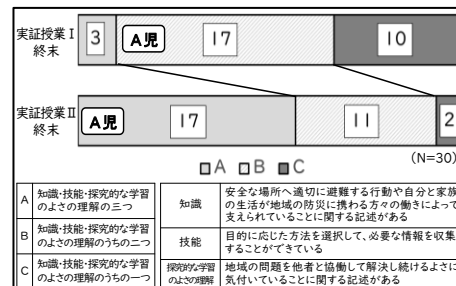


図3 知識・技能に関する評価

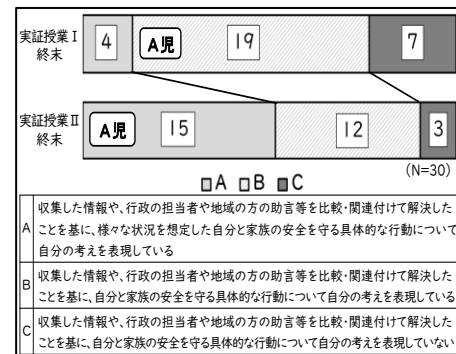


図4 思考・判断・表現に関する評価

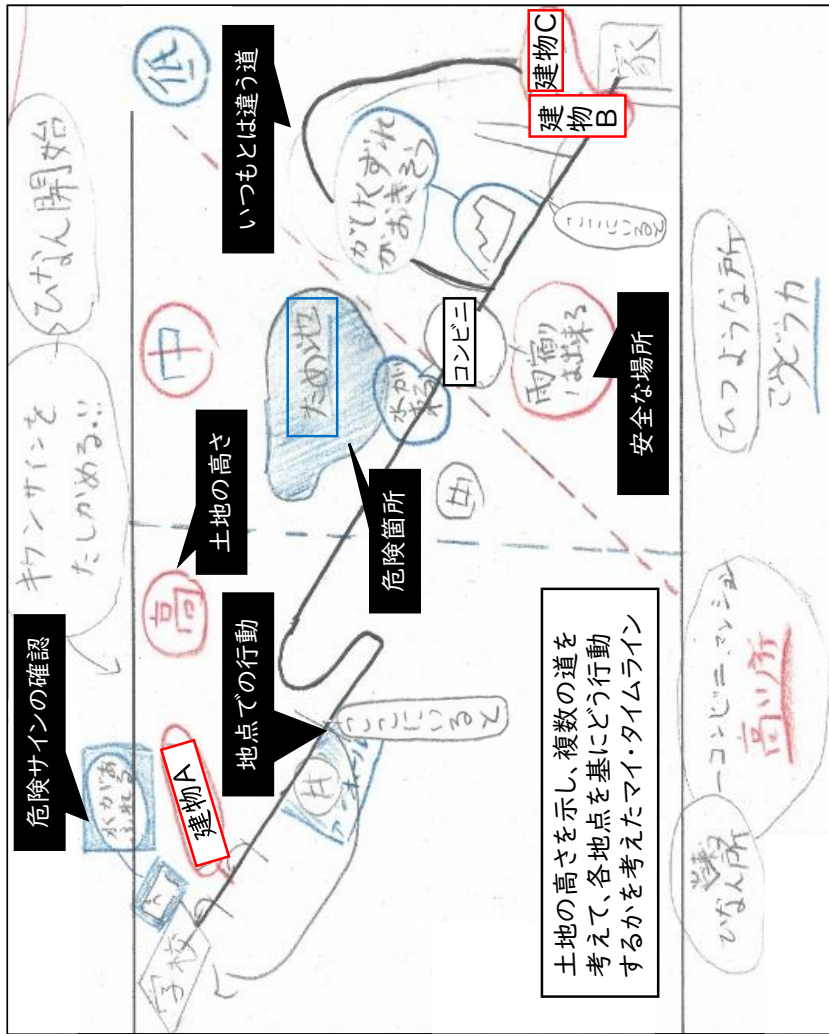
これからは大切な人や地域の人にどんな所があぶないかわ安全な場所や高くしてうい場所を教えてみんなの命を守ってかっいいキーマンになりたいです。

資料10 単元を通したB児の振り返り





○ 児童が作成した防災マップとマイ・タイムラインと、児童に示した作成方法や手順

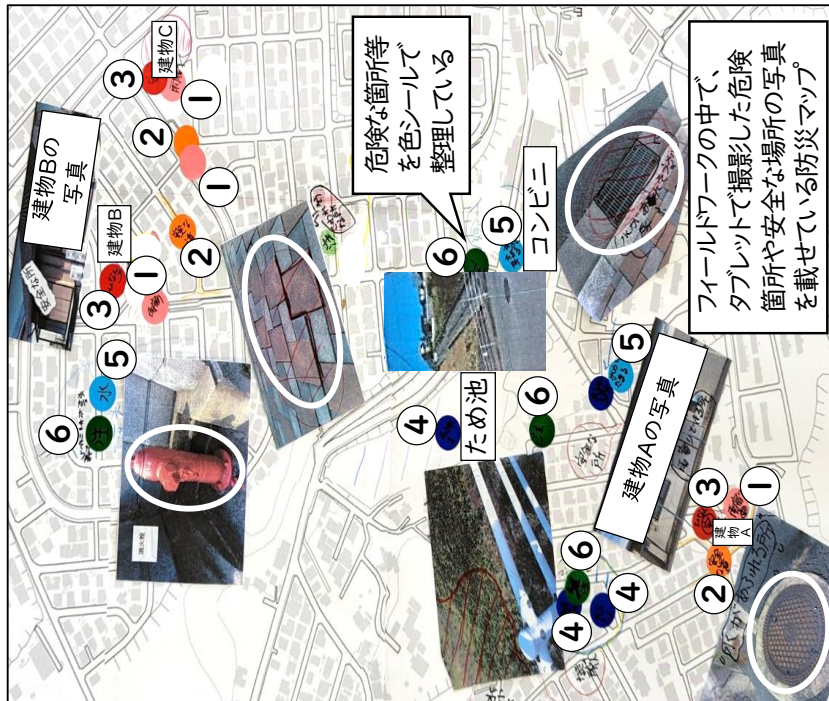


【マイ・タイムライン作成の手順】

- ① 学校と家を書く(書く位置は土地の高さなどを考えて一人一人工夫する)
- ② 学校と家を1本の線でつなぐ(色々な形の線を書いてよいが、1本でまとめる)
- ③ 自分の行動計画を書く(この地点ではどこに避難する、ここは危険なので注意する等)  
※安全な場所は赤色で、危険な場所は青色で書くなどの工夫をする

【マイ・タイムライン作成のポイント】

- ・地図ではなく、避難行動が分かるものにする
- ・一つではなく、複数の避難経路を考える
- ・この地点から、どこに避難するかを考える
- ・危険サインを確認する
- ・複雑にせず、より簡単に作る
- ・土地の高さを意識する



【防災マップ作成に児童が活用したもの】

- ・Yahoo!防災手帳
- ・Google Map
- ・Google Earth
- ・国土地理院電子地図

【防災マップ作成の情報収集や整理・分析する視点】

安全	① 雨やどりできる場所 ② 雨でも歩いて安全な道や場所 ③ 避難所や避難できる場所	お店、高い建物など 土地が高い所、すべらない道など 交流センター、地区の公民館など
危険	④ 水があふれ出しそうな場所 ⑤ 雨水が溜まりそうな場所 ⑥ 歩くとときに注意する場所	マンホール、田、畑、水路、川、ため池など 土地の低いところ、道路の穴など 道路の凸凹、道路のひび、側溝、下り坂、あぜ道、マンホール、がけ、小高い丘、倒木など